

内航海運の明日を考える会ニュース

貨物定期航路の発祥地大阪において内航海運の明日を切り開き何としても展望を見出すことを目的とした「内航海運の明日を考える会」です。ヨロシク!!!

内航海運の明日を考える会」は二つのまつりに出展

第45回 大正区民まつりへの展示

第12回 天保山まつり2019へ「内航海運物船コーナー」ブースを出店

大正区民まつりに参加し、内航海運の重要性をPRしました

令和元年10月20日（日）昨年に引き続き大阪市大正区役所で開催された「大正区民まつり」に展示出展しました。

展示内容は、まつり会場のコミュニティセンター内の菱垣廻船、各種貨物船パネル、モーダルソフトPRポスター、内航海運の仕事内容紹介ポスター、「これが内航海運だ」等内航海運の紹介パンフやチラシ、貨物船やタンカーのペーパークラフト、ペンライト付ボールペン等々を展示・配付し、日頃市民の目に触れる機会が少ない内航海運、船員の仕事などを紹介し、内航海運が国内輸送量の約4割強を担う重要な輸送産業であることなど、その役割と重要性を広く市民にアピールしました。



★天保山まつり
ナイコウくんが大人気

令和元年11月10日（日）大阪市港区天保山岸壁で開催された「天保山まつり2019」（築港・天保山にぎわいまちづくり実行委員会主催）に「内航海運物船コーナー」を近畿運輸局の「内航海運紹介コーナー」とともにブース出店しました。

「内航海運物船コーナー」では、船のパネル展示をはじめ、子ども船長服の着用、写真入り缶バッジの無料提供を実施したところ、長蛇の列で大変賑わいました。



また、「内航海運の明日を考える会」ゆるキャラの「ナイコウくん」が登場すると、子供達の歓声があがり、一緒に写真を撮るなど大変人気を博しました。

「内航海運紹介コーナー」では、内航海運を紹介するDVDの上映や、内航海運の重要



性と船員の仕事に関するパネル展示、内航海運に関するO×クイズ、ロープワーク体験等を実施し、多くの参加を得ました。

今回準備した内航海運を啓発するパンフレット・グッズ等については、両ブースが連携して配布し、特に内航海運のペーパークラフト（日本内航海運組合総連合会作成）や缶バッジは、大人、子どもを問わず大変な人気でありました。

内航海運とつながりが深い大阪市港区の地域において、このような催しに参加できたことで、海に近くてもなかなか内航海運に馴染みが少ない市民に対し、内航海運の重要性や船員の仕事に関し認識を新たに親しみを持つていただく良い機会となりました。



「ナイコウくん」です。

大阪海運組合の歴史

大阪は、海とともに発展してきたまちで、千三百年以上前に「難波津」がおかれ国際的な交易都市であった。

中世には淀川でつながる京都の玄関口となり、豊臣・徳川時代には港湾都市として諸藩の蔵屋敷がおかれ、米相場が立ち、「天下の台所」とまで呼ばれる繁栄を謳歌した。

明治時代以降は、紡績や鉄鋼、造船などの工業都市へと急速に変貌をとげた。

こうした産業の発展を支えたのが海運業であり、江戸時代、各地から物資を大阪に運んだのが北前船や菱垣廻船でこれらの船を操る廻船業者がいくつも生まれた。

そんな港と共に繁栄してきた大阪の大正区には、瀬戸内・西日本各地を結ぶ内航海運物船の海運会社が集まり、その海運会社によって設立されたのが「大阪海運組合」で、その歴史、歩みを紹介します。

大阪海運組合の母体は、昭和14年5月設立の「大阪地区機帆船海運組合」である。全国に地区機帆船海運組合が設けられ、その中央団体として昭和15年9月に今日の全国海運組合連合会の母体である全国機帆船海運組合連合会（全機連）が設立された。

その後、昭和18年8月全機連は解散して木船海運協会が設立され、大阪地区機帆船海運組合は同月「木船海運協会大阪支部」に改組した。

昭和21年5月、木船海運協

会が廃止となり、再度全国機帆船海運組合が設立され、木船海運協会大阪支部も大阪地区機帆船海運組合となった。昭和22年8月に海運組合法が廃止になり、第二次全機連も解散し、昭和23年3月に任意団体の日本機帆船業会が発足し、大阪地区機帆船海運組合も昭和26年5月に任意団体「大阪地区機帆船業会」に改組した。

しかし、翌6月には日本機帆船業会が解散し、全国機帆船組合総連合会が設立され、大阪機帆船業会も第三次全機連に加入した。運輸省は昭和32年10月、五百総ノ未満の小型鋼船も加えて小型船海運組合法を施行。これに伴い昭和32年から33年にかけて全国各地で地区海運組合の設立が相次ぎ、大阪では33年4月に大阪機帆船業会を改組し、「大阪海運組合」が発足した。

昭和33年10月には中央団体である現在の全国海運組合連合会（全海運）が発足し大阪海運組も加入した。そして、昭和39年8月の内航海運業法施行を受けて、大阪海運組合も同法に基づく海運組合となった。



大正内港全体図